

身体障がい者・知的障がい者

地域移行推進プロジェクトチーム



報告書記載者：村井 友生
 運営会議の担当委員：渡邊委員

令和元年度(平成31年度)の重点項目

- ・地域生活支援拠点の重要な機能のうち、「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制作り」について、議論を深める。
- ・「相談支援機能」、「緊急時受入れ・対応」に関しても更に掘り下げる必要があり、改めて議論する。

活動概要

<p>平成30年度 活動実績</p>	<p>5月—第1回会議開催 顔合わせと札幌市版の地域生活支援拠点についてイメージを共有する。</p> <p>8月—第2回会議開催 札幌市の現状報告(夜間休日虐待通報・緊急受入の状況、施設の状況)に加え、相談支援事業所、短期入所事業所、グループホームに対して行った緊急受け入れ等に関するアンケート結果を参考に地域生活の現状を把握した上で、今後、どのような機能や仕組みが必要なのか議論する。</p> <p>10月—第3回会議開催 前回会議の振り返りと、「相談支援機能」のあり方を検討する。</p> <p>12月—第4回会議開催 前回の振り返りと、「相談支援機能」のあり方を一旦まとめる。</p> <p>平成31年2月—第5回会議開催 「緊急時受入れ・対応」(受け入れ側として必要な条件等)に関</p>
------------------------	--

	<p>けんとう して検討する。</p>
<p>れいわがねんど 令和元年度 へいせい ねんど (平成31年度) かつどうよてい 活動予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> れいわ がねんど へいせい ねんど げつ かい かいぎ じっし 令和元年度（平成31年度）も2か月に1回のペースで会議を実施 よてい 予定。 かいぎかいさい あ じぜん じむきょくかいぎ じっし 会議開催に合わせて、事前に事務局会議を実施。 ないよう かん ちいきせいかつしえんきよてん じゅうよう きのう けんとう 内容に関しては、地域生活支援拠点の重要な機能についての検討を ちゅうしん おこな 中心に行う。

かだい がいよう
課題の概要

かだい がいよう 課題の概要	かだい 課題No.
<p>せいしんしょう かがた ちいきいこう すず かんが 「精神障がいがある方々の地域移行がなぜ進まないのか」を考えるプロ ジェクトが2年前に立ち上がる。同様の課題は身体、知的の障がいがある かがた い しんたい ちてき しょう かがた ちいきいこう 方々にも言えるのではないか、身体、知的の障がいがある方々の地域移行の じったい もと ぶぶん せいさ ひつようせい 実態に基づき、「なぜ」の部分を精査する必要性があるのでは、「なぜ」が明確 になることで地域移行が円滑に進む部分もあるのでは、との議論の中でプロ ジェクトチームにて「なぜ」を掘り下げることとなる。同時に、札幌市で地域 せいかつしえんきよてん れいわ ねんど へいせい ねんど かいし 生活支援拠点を令和3年度（平成33年度）より開始するにあたり、地域生活 ささ しくみ しげんとう ひつよう ていげん を支える仕組みとしてどのような資源等が必要なのか提言する。</p>	なし

かだいかいけつ む ほうこうせい
課題解決に向けた方向性

かだいかいけつ む ほうこうせい 課題解決に向けた方向性	かだい 課題No.
<ul style="list-style-type: none"> ちいきせいかつしえんきよてんじぎょう なかみ りかい うえ ちいきせいかつ えんかつ おく 地域生活支援拠点事業の中身を理解した上で、地域生活を円滑に送れるよう かんきょうせいび しゃかいしげん せいりとう ぎょうせい おこな 環境整備、社会資源の整理等を行政とともに行う。 しょう かがた ちいきいこう えんかつ おこな ひつよう しげん せいり 障がいがある方々が、地域移行を円滑に行うために必要な資源を整理する。 	なし

かつどうきげん もくひょう
プロジェクトの活動期限とそれまでの目標

<p>かつどうきげん れいわ ねんどまつ へいせい ねんどまつ 活動期限は、令和2年度末（平成32年度末）とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ちいきせいかつしえんきよてん はじ ちいきせいかつ ささ しくみ しげん 地域生活支援拠点を始めるにあたり、地域生活を支える仕組みとしてどのような資源 とう ひつよう ぎろん ほか かいし なが なか 等が必要なのか議論する他、開始までの流れの中で、プロジェクトチームがどう関わ ったかをまとめた報告集の作成を行う。
--

しょう かたがた ちいきいこう すず ひつよう しゃかいしげんとう なに
 ・ 障がいがある方々の地域移行が「なぜ」進まないのか、必要な社会資源等は何かを
 まとめる。

こうせいいん
 構成員

しめい 氏名	しよぞく 所属
ひらまつ ともり 平松 朋紀	さっぽろししんたいしやう しゃふくしじぎやうれんけいきやうぎかい 札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会 (グリーンハイム 施設長)
まなべ よういち 真鍋 陽一	さっぽろし ちてきしやう ふくしきやうかい 札幌市知的障がい福祉協会 (札幌北荘 施設長)
やまざき ちえみ 山崎 千恵美	さっぽろし ちてきしやう ふくしきやうかい 札幌市知的障がい福祉協会 (NIKORI いどむ統括施設長)
こんの じゆんこ きたくちいきがかい ふくぶかいちやう 紺野 順子 (北区地域部会 副部会長)	トライ夢
すずき けんいち 鈴木 健一	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
たなか ようこ 田中 陽子	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
まきの じゆんこ 牧野 准子	しょう とうじしやこうし かい だひやう 障がい当事者講師の会すぷりんぐ 代表
ながえ むつこ 長江 睦子	さっぽろし て いくせいかい かいちやう 札幌市手をつなぐ育成会 会長
おざわ ただやす そうだんしえんぶかい 小澤 忠優 (相談支援部会)	そうだんしつ 相談室すきっぷ
まつさか ゆたか あつべつちいきがかい 松坂 優 (厚別区地域部会)	わーかーびいー りじちやう 理事 長
さとう あきら 佐藤 旭	ていねくほけんふくしか こべつしえんしゆさ 手稲区保健福祉課 個別支援主査
なかの よしえ 中野 喜恵	しゃかいふくしほうじん さと 社会福祉法人はるにれの里 (生活介護事業所ぼぬーる 所長)
にわ ともこ 丹羽 智子	ほっかいどうさっぽろようごがっこう しんろ ちいきかつどうぶ きやうゆ 北海道札幌養護学校 進路・地域活動部 教諭
わたなべ みつぐ しろいしくちいきがかい ぶかいちやう 渡邊 貢 (白石区地域部会 部会長)	じりつせいかつ じむきよく 自立生活センターさっぽろ 事務局
むらい ともお みなみくちいきがかい 村井 友生 (南区地域部会)	しゃかいふくしほうじんせいじやうがくえん ちいきしえんかかちやう 社会福祉法人聖静学園 地域支援課課長

※ ぜんかいほうこくじ へいせい ねん がつ にちぜんたいかい いこう へんこう こうせいいん しめい うし
 前回報告時 (平成30年11月6日全体会) 以降に変更があった構成員は氏名の後ろに
 (新) と記載。

じむきよく
 事務局

さっぽろし ほけんふくしきよくしやう ほけんふくし ぶしやう ふくしか
 ☆札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課

☆さっぽろちいき
 地域づくりネットワーク ワン・オール

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における
課題整理状況
(第32回 全体会 資料)
2019/5/21

分冊④

【身体障がい者・知的障がい者

地域生活移行推進プロジェクトチーム】

【精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム】

⇒平成30年度末でプロジェクトチームを終結。平成32年度までに設置予定の精神障がい者の地域包括ケアシステムの協議の場にて課題検討を継続。

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
35 (H25)	<p>〇一人暮らしの不安</p> <p>これから一人暮らしを始めようとする人たちが持つ不安に対してどのように支援をしてゆくのか。長い間、入所施設や親元で暮らしていた障がい者が、これまで経験したことの無い一人暮らしを始めようとする際、少なからず不安を覚えるであろうことは想像が難くない。特にその日常生活にさまざまな支援を必要とする障がい者の場合はなおさらである。</p> <p>1か月程度の「宿泊体験プログラム」への助成制度や、家具設備があり保証人不要の短期賃貸マンションを活用したアパート生活の体験入所支援等を実施しているところもある。「地域生活の体験」に向けての支援が、障がい者のみならず、その家族の不安を軽減することに役立つと思われる。(東区18)</p>	<p>一人暮らしを始める人たちの不安を解消する仕組みについて検討する。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 住まいに関するプロジェクトチームで検討。及び、運営会議で検討中の身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームができたならそちらでも検討をすることにする。</p> <p>※住まいに関するプロジェクトチーム(平成29年6月22日) 運営会議から上がってきたこの課題について共有。今後プロジェクトで検討していく課題として共有する。</p>	<p>平成30年度 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームが設置。課題検討中。</p>	<p>主：住まい 掲載：地域移行</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
91 (H28)	<p>医療保護入院者退院支援委員会への相談支援事業者の出席を円滑にするための措置について</p> <p>平成26年4月1日の精神保健福祉法改正で、精神科病院では、医療保護入院者・家族から希望があった場合等、退院後に利用する障がい福祉サービス等について退院前から相談に応じ、必要な情報提供等を行う相談支援事業所等の紹介に努めることが義務付けられた。</p> <p>また、相談支援事業所等は、相談援助を行っている、あるいは行うとする医療保護入院者に係る退院支援委員会への出席の要請があった場合には、できる限り出席して退院に向けた情報共有に努めることとされている。</p> <p>しかし、現実には香雪病院、あしりべつ病院の独自調査で医療保護入院者退院支援委員会への地域援助事業者の出席率は2%しかない。</p> <p>個人情報等の問題もあり個別ケースは出さないが、環境整備が課題と考える。</p> <p>【こころのチームの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の形がいが化が危惧される状況である。 ・他の自治体では、相談支援事業所等の地域援助事業者が参加しやすい環境を作るために、地域援助事業者に対して交通費を支出する補助金が制度化されている実例がある。 ・相模原の入所施設での事件を受けて、措置入院での退院支援委員会も議論されている。 ・札幌市に予算措置を要望したい。 <p>【事務局会議の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所が不足して相談員が多忙な状態にあることが本質的な課題ではないか。 ・地域援助事業者は介護分野も含まれ、相談支援事業所だけの課題ではない。 ・北海道と札幌市、障がいと高齢にまたがる課題で、行政としては対応部署がどこのかが課題。 ・協議会では、要望という形より課題という形の検討が望ましい。 ・予算措置のためには、次期障がい者プランの検討に間に合うタイミングが望ましい。【清田区】 	<p>【課題】 医療保護入院者退院支援会への相談支援事業者の出席を円滑にするための措置について</p> <p>【取組提案】</p> <p>相談支援事業所等の地域援助事業者が参加しやすい環境を作るために、地域援助事業者に対して交通費を支出する補助金の創設について、別添の提案を協議会に提出する。</p> <p>※別紙有</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 退院支援委員会以外でも、ケース会議には無報酬で参加している。むしろ、医療部局からの施策提案の方が良いのではないかと。 精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームで、地域移行定着の取り組みが課題にあがっている。精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームで共有し検討。 ※審議会で、精神に特化した地域包括ケアについて提案あった。障がい者プランの見直しに反映と、他障がいと差が生まれないように。</p>	<p>・今後は2021年3月までに設置される予定の精神障がい者の地域包括ケアシステムを検討する場に課題が移行されていく予定。 ※一定の改善が見られたため、一旦取組み終了。</p>	<p>主：医療</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
69 (H26)	<p>札幌市内、近郊で受け入れてもらえる入所施設が見つけれない。(相談)</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>入所できる施設が見つけれない</p> <p>入所施設を効果的に活用するための利用者の循環システムが必要では？地域に出られる人は出し、地域では難しい人を一定期間施設で見っていくという流れが作れたら助かるが・・・。</p>
75 (H27)	<p>平成24年から、「地域相談支援給付」が始まり、これまで精神障害領域では主治医からの推薦などで地域移行対象者を決定していた仕組みから、本人が行政の窓口で「地域移行支援」の申請を行い支給決定がされれば、地域移行の対象となることになった。</p> <p>ただ、地域移行支援の利用者は増えることなく、長期に入院している精神障害者のうち約半数が65歳を越えて、死亡退院も少なくない。</p> <p>精神科病床から地域へ生活の場を移したいと希望する方の想いの実現や、退院を自己決定できるための支援があれば地域移行したいと希望する方への専門領域を越えたアプローチが必要。</p> <p>精神障害以外の領域でも、地域移行に向けた取り組みが必要。(相談)</p>	<p>地域移行支援</p> <p>厚生労働省が示している資料を参考に、「地域移行部会」などを設置し、地域移行推進のために専門領域を越えた協議、検討を行っていく。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】 触法ケースは、障害だけの問題でない。司法は、障害福祉に依頼して行く。入所施設だと、受入は定員がいっぱい。触法ケースについては、発達障がい者支援手法開発会議にお願いしてもよいのではないかと。入所施設からグループホームに移行しても、高齢になって施設に戻ることがあるので、介護保険に繋がることも必要。地域での受け皿が無いから、入所施設が必要になる。入所施設からの地域移行について、今後の取組をどのようにするか。次年度はアセスメントから実施したい。</p> <p>身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置。</p>	<p>身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームにて課題検討。</p>	<p>主：社会資源</p>
<p>【課題整理済】 精神科病院からの地域移行についてのプロジェクト設置を全体会に提案し、精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームを設置。</p> <p>入所施設からの地域移行課題残る ⇒身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置</p>	<p>精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームは、平成30年度末で終結。今後は平成32年度までに設置予定の精神障がい者の地域包括ケアシステムの協議の場にて課題検討を継続。</p> <p>※一定の改善が見られたため、一旦取組み終了。</p>	